

# 經濟論叢

第137卷 第3号

## 平田清明教授記念號

---

献 辞	池 上 惇	
マルクス管見	菱 山 泉	1
比較経済学序説	伊 東 光 晴	12
現代資本主義と経済政策の課題	清 水 嘉 治	33
マルクスのインダストリ論	山 田 鋭 夫	54
スミス世界史像の再検討にむけて	野 沢 敏 治	71
ケネー『経済表』「原表」の マネー・フロー分析	浅 野 清	91
資本における所有・序説	八 木 紀一郎	114

平田清明 教授 略歴・著作目録

---

昭和61年3月

京 都 大 学 經 濟 學 會

## 平田清明 教授 略歴

- 大正11年(1922) 8月17日 東京に生まれる
- 昭和17年(1942) 9月 東京商科大学予科修了
- 昭和22年(1947) 9月 東京商科大学卒業
- 昭和22年(1947) 10月 東京商科大学特別研究科進学
- 昭和23年(1948) 4月 大倉経済専門学校講師(経済政策学)を委嘱される
- 昭和24年(1949) 4月 東京経済大学大倉経済専門学校講師(経済学説史・経済政策学)を委嘱される
- 昭和24年(1949) 9月 東京商科大学特別研究科修了
- 昭和25年(1950) 1月 文部教官として横浜国立大学横浜経済専門学校に勤務(1951年3月まで)
- 昭和26年(1951) 3月 横浜国立大学助手
- 昭和27年(1952) 4月 横浜国立大学経済学部助教授(1958年4月まで)
- 昭和33年(1958) 9月 埼玉大学経済短期大学部講師および同大学文理学部非常勤講師
- 昭和34年(1959) 5月 埼玉大学経済短期大学部助教授・同大学文理学部助教授併任
- 昭和35年(1960) 4月 名古屋大学経済学部講師・同大学院経済学研究科経済学専攻課程担当
- 昭和36年(1961) 11月 「フランス古典経済学研究序説」により、経済学博士号取得
- 昭和40年(1965) 6月 名古屋大学経済学部助教授
- 昭和42年(1967) 8月 啓蒙思想国際会議出席のため海外派遣
- 昭和46年(1971) 4月 名古屋大学経済学部教授(経済学史担当)
- 昭和48年(1973) 3月 在外研究のため出張を命じられる(帰国1974年9月)
- 昭和48年(1973) 10月 パリ第III大学にて講義(1974年9月まで)
- 昭和51年(1976) 4月 名古屋大学評議員(1978年3月まで)
- 昭和53年(1978) 4月 京都大学経済学部教授(経済原論担当/現在に至る)・同大学院経済学研究科担当・名古屋大学経済学部教授併任(1979年3月まで)
- 昭和55年(1980) 1月 京都大学評議員(1984年4月まで)
- 昭和56年(1981) 9~10月 短期海外出張

- 昭和57年(1982) 1月 京都大学経済学部長・同大学院経済学研究科長(1984年4月まで)
- 昭和58年(1983) 5月7日  
～22日 京都大学長事務代理・同大学医療技術短期大学部学長事務代理
- 昭和59年(1984) 4月 パリ大学(第Ⅶおよび第Ⅲ)客員教授(1985年9月まで)

## 平田清明 教授 著作目録

## 著 書

経済科学の創造	岩波書店	1965年 7月
市民社会と社会主義	岩波書店	1969年 10月
経済学と歴史認識	岩波書店	1971年 8月
社会形成の経験と概念	岩波書店	1980年 2月
新しい歴史形成への模索	新地書房	1982年 9月
経済学批判への方法叙説	岩波書店	1982年 10月
コンメンタール「資本」1	日本評論社	1980年 7月
コンメンタール「資本」2	日本評論社	1981年 2月
コンメンタール「資本」3	日本評論社	1982年 5月
コンメンタール「資本」4	日本評論社	1983年 3月

## 共 著

社会思想史概論 (高島善哉・水口洋・平田清明)	岩波書店	1962年 4月
経済学史 (内田義彦・大野英二・住谷一彦・伊東光晴・平田清明)	筑摩書房	1970年 6月
転換期の思想 (宮崎義一・篠原一・平田清明)	新地書房	1978年 10月
21世紀への思索 (宮崎義一・篠原一・中山茂・平田清明)	新地書房	1986年 3月

## 編 著

社会思想史	青林書院新社	1979年 8月
経済原論	青林書院新社	1983年 4月

## 論 文

差額地代の源泉について ——山田勝次郎『地代論々争批判』 研究——	季刊理論 (理論社) 第7号	1948年 12月
ケネーの「明証論」における感覚論 と偶因論 (I)	エコノミア (横浜国立大学 経済学会) 第3号	1950年 12月
ケネーとスミス ——『国富論』第4篇における「農業 主義」批判をめぐって——	高島善哉編『スミス国富論講 義』(春秋社) 第4巻	1951年 7月
ケネーにおける動物生理学と政治経 済学	一橋論叢 (一橋大学一橋 学会) 第26巻4号	1951年 10月
フィジオクラシイと経済科学	エコノミア 第4巻1/2号	1952年 9月

ディス・インフレと世界不況	第一 経済 秋季特別号	1952年 9月
重農主義の成立 (Quesnay)	伊坂市助編『原典経済学』 (同文館出版)	1953年 5月
地代論論争の問題点	民主主義科学者協会編『講座 資本論の解明』(理論社)第 5分冊	1953年 5月
地代と農業における資本主義	遊部久蔵・長洲一二郎編『資本 主義経済の基礎原理』(大月 書店)	1954年 5月
スミスの重農主義批判	経済学説全集第2巻 高島善 哉編『古典学派の成立』	1954年 12月
スミスとシスモンディ —経済的不調和の問題—	同 上	1954年 12月
序 論	民主主義科学者協会経済部会 編『経済学教科書学習講座 ①』(蒼樹社)	1955年 8月
分割地所有と地代範疇 —分割地所有の地代論的接近のため に—	山田盛太郎編『変革期におけ る地代範疇』(岩波書店)	1956年 9月
古典経済学の生成と展開 (内田義彦と共同執筆)	都留重人他編『経済学入門』 (東京出版)	1958年 7月
日本資本主義分析	同 上	同 上
アルジェリア問題の新視角	エコノミスト (毎日新聞社) 36巻28号	1958年 7月
フランス古典経済学	金子武蔵他編『講座近代思想 史』第5巻『機械の時代』 (弘文堂)	1959年 4月
再生産過程把握における生産資本循環 の意義〔上〕—古典経済学研究の理 論的基準確定のために—	社会科学論集 (埼玉大学経済 学会) 4号	1959年 11月
シスモンディ経済学の再検討 —その再生産=蓄積論の基本構成を めぐって—〔上〕〔下〕	経済科学 (名古屋大学経 済学会) 第8巻3,4号	1961年 1,6月
シスモンディの分割地所有論 —経済学的ロマン主義の特徴づけに よせて—〔上〕〔二〕	商学論集 (福島大学経済 学会) 第29巻4号, 第30巻1号	1961年 2,6月
生産資本循環論の方法論的再検討	経済研究 (一橋大学経済 研究所) 第13巻1号	1962年 1月
晩年のエンゲルス —マルクス主義研究序説—	経済科学 第9巻3号	1962年 3月
「インターナショナル」のマルクス —マルクス主義研究序説—	経済科学 第10巻3号	1963年 3月
ケネー—経済学体系	内田義彦他編『経済学史講 座』第2巻 (有斐閣)	1965年 9月

- |   |                            |                                 |                        |
|---|----------------------------|---------------------------------|------------------------|
| マルクスにおける経済学と歴史<br>—『経済学批判要綱』を中心として—<br>〔上, 中, 下の1, 下の2〕       | 思                          | 想 (岩波書店)<br>502, 503, 506, 509号 | 1966年4, 5,<br>8, 11月   |
| 商品論の復位  | 一                          | 橋 論 叢 第56巻6号                    | 1966年 12月              |
| 歴史理論としての『資本論』<br>—マルクス市民社会論の生成と展開—                            | 思                          | 想 515号                          | 1967年 5月               |
| 50年代マルクスの市民社会論<br>—歴史理論としての商品論の成立—                            | 経済学史学会編『資本論』<br>の成立』(岩波書店) |                                 | 1967年 11月              |
| 社会主義と市民社会   | 世                          | 界 (岩波書店)<br>267号                | 1968年 2月               |
| ヨーロッパで考えたこと<br>—日本で考えることへの序章—                                 | 展                          | 望 (筑摩書房)<br>111号                | 1968年 3月               |
| 範疇と日常語<br>—市民社会と唯物史観—   | 思                          | 想 526号                          | 1968年 4月               |
| マルクスにおける「構造」概念の再検討<br>—経済学と文化人類学との谷間に—                        | Bulletin (日仏経済学会)<br>4/5号  |                                 | 1968年 8月               |
| マルクスにおける経済と宗教<br>—市民社会と人間疎外—                                  | 展                          | 望 119号                          | 1968年 11月              |
| 市民社会と階級独裁   | 世                          | 界 278号                          | 1969年 1月               |
| キリスト教とマルクス主義  | 三 田 文 学 (三田文学会)<br>56巻1号   |                                 | 1969年 1月               |
| 社会科学における人間の再生   | 別冊潮『日本の将来』春季号              |                                 | 1969年 4月               |
| マルクス研究におけるフランス語版<br>『資本論』の意義 —とくに本源的<br>蓄積をめぐる— (上, 下)        | 思                          | 想 539, 540号                     | 1969年 5, 6月            |
| マルクスにおける市民社会の概念につ<br>いて                                       | 経 済 研 究 20巻3号              |                                 | 1969年 7月               |
| 物神性の再発見<br>—歴史理論としての商品論の総括—<br>(上, 下)                         | 思                          | 想 544, 545号                     | 1960年<br>10, 11月       |
| 貨幣把握と歴史認識<br>—『要綱』貨幣章における市民社会<br>の省察— (上, 中, 下)               | 思                          | 想 553, 554,<br>556号             | 1970年 7,<br>8, 10月     |
| 物象化と地代範疇<br>—分割地所有論と経済学的三位一体—<br>(上, 下)                       | 思                          | 想 558, 560号                     | 1970年 12月,<br>1971年 2月 |
| 資本論研究の新地平   | 別冊経済評論 (日本評論<br>社) 第5号     |                                 | 1971年 5月               |
| 歴史的必然と歴史的選択 —マルクス<br>「サスーリチあての手紙」について・<br>文献史と理論内容— (1, 2, 3) | 展                          | 望 154, 155,<br>156号             | 1971年 10,<br>11, 12月   |
| 物象化と三位一体範疇<br>(1, 2, 3, 4, 5)                                 | 思                          | 想 573, 574, 575,<br>576, 577号   | 1972年3, 4,<br>5, 6月    |

個体的所有概念との出会い 一労働と 所有のディアレクティク— 覚え書(上, 中, 中の統, 下)*	思 想	617, 618, 619, 620号	1975年11, 12, 1976年 1, 2月
日常言語と科学的概念— ‘剰余価値’概念再検討への序章	現 代 思 想(青土社)	3巻13号	1975年 12月
剰余価値概念の再検討	経済セミナー(日本評論社)	254号	1976年 3月
「独裁」概念の放棄か、豊富化か	朝日ジャーナル(朝日新聞社)	18巻22号	1976年 6月
フランス人民連合の自己認識 —プロ レタリア独裁概念の放棄に寄せて—	世 界	368号	1976年 7月
放棄決定後のプロレタリア独裁 —大統領も介入したフランスの場合—	朝日ジャーナル	18巻27号	1976年 7月
日欧貿易戦争における経済と文化 —外国紙での日本像の検討を通じて—	経 済 評 論	26巻7号	1977年 7月
哲学と社会を生きる—追憶の森有正	家永三郎・小牧治編『哲学 と日本社会』(弘文堂)		1978年 2月
現代に蘇えるマルクス	経済セミナー	281号	1978年 6月
自主管理社会主義への人間科学 —J. アタリ『言葉と道具』を読む	経 済 評 論	27巻6号	1978年 6月
フランス左翼の苦悩と模索	朝日ジャーナル	20巻18号	1978年 7月
フランス左翼の自己革新 (全7回連載)	エコノミスト(毎日新聞社)	56巻30, 31, 33, 36, 37, 38, 39号	1978年7~9月
発生史的方法とは何か	経済セミナー	285号	1978年 10月
ユーロコミュニズムとレーニン主義 —ユーロコミュニズムを定義するもの	経 済 評 論	27巻10号	1978年 10月
マルクスにおける生産諸力の概念につ いて—生産力の弁証法(1, 2, 3)	経済論叢(京都大学経済学会)	122巻5/6, 123巻1/2, 3号	1978年 11/12 ~1979年 3月
複数主義の富一党(PCF)内討議の激 流において	経 済 評 論	28巻2号	1979年 2月
コンメンタール『資本』論 (全46講)	経済セミナー	291, 292, 293, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 333, 334, 335, 336, 337, 338	1979年 4月~ 1983年 3月
自己管理と複数主義	世 界	402号	1979年 5月
社会主義の危機か、中越戦争の意味	月刊総評(日本労働組合 総評議会)	258号	1979年 6月

中越戦争と社会主義—『ヌーヴェル・クリティーク』誌ほか	朝日ジャーナル 21巻22号	1979年 6月
分岐点に立つユーロソシアリズム—フランス社会党メッツ大会での党内複数主義の総括	経済評論 23巻9号	1979年 9月
フランス社会党の試練	月刊総評 261号	1979年 9月
左翼—混沌の中、新たな模索	信濃毎日新聞 12月26日号	1979年 12月
自己管理社会主義の三潮流—自己管理思想の社会主義諸党への浸透(フランスの場合)	伊東光晴・森恒夫編『現代資本主義—その理論と現状』(日本評論社)	1980年 8月
一つのデカルト像—マルクスとデカルト—	中川秀恭編『森有正記念論文集—経験の水位から—』(新地書房)	1980年 9月
経済学のプランと方法—M. リュベールの所説によせて—(上、下)	経済論叢 126巻3/4, 5/6号	1980年 9/10, 11/12月
河上肇の社会科学—河上肇における経済学と唯物史観—	住谷一彦編『求道の人・河上肇』(新評論)	1980年 10月
アルチュセールの悲劇	経済評論 30巻3号	1981年 3月
いまフランスで始まっていること—「人間の顔をした社会主義」の内実	エコノミスト 59巻33号	1981年 8月
さらばロスチャイルド—国有化法に揺れるフランス	経済セミナー 324号	1982年 1月
ポーランドの冬将軍—自主管理共和国に挑戦する軍事政権	エコノミスト 60巻1号	1982年 1月
国有化とフランス憲法	経済評論 31巻4号	1982年 4月
マルクス主義における人格の概念—人格の物象化と物象の人格化—	社会科学研究年報(合同出版)第6号	1982年 12月
私のなかのマルクス	思想 705号	1983年 3月
失明と開眼のはざままで	世界 461号	1984年 4月
産業化と情報化のなかで—パリ大学での講義を通じて—	世界 469号	1984年 12月
宗教と教育—「私学の自由」をめぐるフランスでの教育問題—	潮 308号	1984年 12月
河上肇における経済学と文学	東京河上会報 53号	1984年 12月
ブルターニュへの旅—日仏経済シンポジウムに参加して	潮 315号	1985年 7月
決算迫られるフランス社会党政権	エコノミスト 64巻第7号	1986年 2月
現代に問うフランスの革新と伝統	エコノミスト 64巻第12号	1986年 3月



## 欧文論文

- |  |   |                |
|--|---|----------------|
| Remarques sur les catégories fondamentales du marxisme   | The Economic Science<br>〔経済科学〕 Vol. 15, No. 3.                                      | March 1968     |
| Sur la Notion de Propriété Individuelle chez Karl Marx   | The Economic Science<br>Vol. 25, No. 4.   | March 1978     |
| Conceptual Evolution of "Capital in Process" in "Foundations of the Critique of Political Economy" | Kyoto University Economic Review Vol. 51, No. 1/2.                                  | Apr.-Oct. 1981 |
| L'organisation du travail dans les entreprises Japonaises face a la société informatique           | Kyoto University Economic Review Vol. 54, No. 1.                                    | Apr. 1984      |
| Les moments décisifs de l'économie japonaise   | Cahiers du GERTTD, Série Developpement 2 (Université Paris-VII, Section d'Economie) | Jan. 1986      |

## 書評

- |   |                       |                  |
|---|-----------------------|------------------|
| アンリ・ルフェーヴル『デカルト』                            | 一橋論叢(一橋大学一橋学会)第25巻5号  | 1951年5月          |
| 内田義彦『経済学の生誕』                                | 図書新聞(図書新聞社)224号       | 1953年12月5日       |
| 内田義彦『経済学史講義』                                | 日本読書新聞(日本出版協会)1117号   | 1961年8月14日       |
| 杉原四郎『マルクス経済学の形成』                            | 経済研究(一橋大学経済研究所)第16巻1号 | 1965年1月          |
| 河野健二『思想史と現代』                                | 図書新聞 955号             | 1968年4月6日        |
| 高島善哉『アダム・スミス』                               | 日本読書新聞 1459号          | 1968年5月27日       |
| E. バリバル『プロレタリア独裁とはなにか』(加藤晴康訳)               | 朝日ジャーナル(朝日新聞社)20巻2号   | 1978年6月2日        |
| N. プーランツァス『資本主義国家の構造 I』(田口富久治・山岸紘一訳)        | 日本読書新聞 1972号          | 1978年9月11日       |
| E. バリバル『史的唯物論研究』(今村仁司訳)                     | エコノミスト(毎日新聞社)57巻24号   | 1979年6月19日       |
| PCF党内論争に二文獻—アルチュセールとモリナ=ヴァルガス—              | 日本読書新聞 2012号          | 1979年6月25日       |
| イヴォン・ブールデ、アラン・ギレルム『自主管理とは何か?』(海原峻・宇佐見玲理訳)   | 社会運動(社会運動研究センター)7号    | 1979年10月         |
| R. バーロ『社会主義の新たな展望 I, II』(永井清彦・村山高康訳)        | 日本読書新聞 2089号          | 1981年1月<br>5/12日 |
| キャロル・C・グールド『「経済学批判要綱」における個人と共同体』(平野英一・三階徹訳) | 朝日ジャーナル 23巻3号         | 1981年1月23日       |

ズデスク・ムリナーシ『夜寒』（相沢久監訳・三浦健次訳）	週刊読書人（日本書籍出版協会）1368号	1981年2月9日
フランス社会党編『社会主義プロジェクト』（大津真作訳）	朝日ジャーナル 24巻26号	1982年6月18日
内田弘『『経済学批判要綱』の研究』	朝日ジャーナル 25巻5号	1983年2月4日
翻 訳		
マルクス「哲学の貧困」	マルクス＝レーニン主義研究所編『マルクス＝エンゲルス選集』（大月書店）第1巻下	1950年4月
マルクス『『祖国雑記』編集部への手紙』	『マルクス＝エンゲルス選集』第13巻上	1950年9月
マルクス「ヴェラ・ザスリッチへの手紙」	同 上	同 上
レーニン『レーニン選集一戦略・戦術一』全3巻6分冊（共訳）	暁明社	1950年～1951年
ジェルマン・ギャルニエ「国富論序文」	高島善哉編集『スミス国富論講義』（春秋社）	1951年2月
ジャン・バビー『経済学の基本原理』	大月書店	1953年5月
ケアンズ「パスチア論」	H. W. スピーゲル編『経済思想発展史』II（東洋経済新報社）	1954年6月
アレヴィ「シスモンディ論」	H. W. スピーゲル編『経済思想発展史』III（東洋経済新報社）	1954年10月
モーリス・トレーズ『トレーズ政治報告集』全4巻（共訳）	未 来 社	1955年6月～ 1956年6月
モーリス・トレーズ『統一戦線と党内民主主義』（共訳）	未 来 社	1956年2月
ガローディ『近代フランス社会思想史』	ミネルヴァ書房	1958年9月
ケナー著作集（「経済表」ほか）	『世界大思想全集 社会・宗教・科学思想篇』6（河出書房新社）	1959年8月
マルクス「哲学の貧困」	『マルクス＝エンゲルス全集』4（大月書店）	1960年11月
マルクス『『オテーチェストヴェンヌィエ・ザビスキ』編集部への手紙』	『マルクス＝エンゲルス全集』19	1968年10月
マルクス『『哲学の貧困』について』	同 上	同 上
マルクス「ヴェ・イ・ザスリッチへの手紙」	同 上	同 上
マルクス「ヴェ・イ・ザスリッチの手紙への回答の下書き」	同 上	同 上
エチエンヌ・バリバル「プロレタリア独裁について」	朝日ジャーナル 18巻22号	1976年6月4日

ギー・ベス「E. パリパールへの反論」	朝日ジャーナル 18巻22号	1976年6月4日
M. リュベール「経済学のプランと方法」(上)(下)	経済評論 26巻2号, 3号	1977年2月～3月
A. トゥレーヌ『ポスト社会主義』(清水耕一共訳)	新泉社	1982年8月
ジャック・アタリ『情報とエネルギーの人間科学一言葉と道具』(斎藤日出治共訳)	日本評論社	1983年6月
<b>対談・討論・講演記録</b>		
討論 経済学の論理と人間の問題	経済評論 3巻4号	1954年4月
討論 経済学史研究の原点を顧みて	経済学史学会年報 3号	1965年9月
講演記録『明治百年』と資本論100年	『建国記念日(紀元節復活)制定不承認運動の記録』(「紀元節」問題連絡協議会事務局)	1967年2月
座談会 現代の技術と文明 —東洋と西洋の接点を求めて—	世界 269号	1968年4月
対談 歴史の主體的形成と学問	名古屋大学新聞 305号	1968年9月26日
対談『資本論』と社会主義	大阪市大新聞 333号	1968年10月10日
討論 所有の概念をめぐる	現代の理論(現代の理論社) 60号	1969年1月
討論 スチューデント・パワーと現代社会	NHK教育テレビ「テレビ討論2」	1969年1月2日
講演記録 物の見方・考え方—とくに経済と文化をめぐる	学生論叢(名古屋市立女子短期大学学術研究委員会) 1号	1969年2月
講演記録 近代化と市民社会	大学キリスト者(日本YMCA同盟学生部) 35/36合併号	1969年2月
報告討論 中ソ対立からチュエコ事件に至るまで	別冊「潮」日本の将来(潮出版社) 冬季号	1969年2月
対談 現代における変革と終末論	展望 126号	1969年6月
講演 現代マルクス主義 —その展望と問題点—	大学キリスト者 37号	1969年7月
報告討論 市民社会における個人の自己矛盾	別冊「潮」日本の将来 夏季号	1969年8月
対談 反戦と直接民主主義	現代の眼(現代評論社) 10巻10号	1969年10月
討論 社会主義における経済と人間	世界 293号	1970年4月
討論 マルクス再検討・市民社会と人間	展望 137号	1970年5月
講演記録 経済学と歴史認識	一橋新聞(一橋大学一橋新聞部) 871号	1970年6月1日
講演記録 価値論と歴史認識	京都大学新聞(学生団体京都大学新聞社) 1475, 1477, 1479号	1970年6月8日 6月22日 7月6日

報告記録	文化創造の方法	思想の科学会報(思想の科学研究会) 68号	1970年10月
討論	市民社会とマルクス主義—『市民社会と社会主義』をめぐって	現代の理論 82号	1970年11月
講演記録	物象的依存関係の廃棄を	横浜国立大学新聞(横浜国立大学新聞会) 233, 234号	1970年11月25日 12月10日
対談	近代化とナショナリズム	岩波講座「哲学」第5巻『社会の哲学』	1971年2月
報告討論	シンポジウム:『市民社会と社会主義』をめぐって	経済系(関東学院大学経済学会) 86号	1971年2月
講演記録	所有論と歴史認識	極北の思想(北海道解放大学出版社) 4号	1971年5月
講演記録	マルクス主義の原像と人間解放	『現代の変革と人間』(新地書房)	1971年8月
対談	芸術とマルクス	別冊「潮」日本の将来 秋季号	1971年9月
討論	大塚史学とマルクス主義へのチャレンジ	現代の理論 100号	1972年5月
報告討論	明治以後のマルクス主義の受容・その歴史的反省	『出会い—日本におけるキリスト教とマルクス主義』(日本基督教団出版局)	1972年7月
講演	日本における社会科学の新天地	エコノミスト 50巻28号	1972年7月
講演記録	『資本論』をいかに読むか	『現代の変革と人間(II)』	1972年8月
講演討論	市民社会と福祉	『国民福祉向上への課題と展望に関する研究資料(2)』(国民生活センター調査部)	1973年3月
報告討論	シンポジウム:「アジア的生産様式論」をめぐって	アジア経済(アジア経済研究所) 14巻 5, 6, 8号	1973年 5, 6, 8月
討論	個体的所有概念との出会い	香川大学新聞(香川大学新聞会) 149号	1976年4月13日
対談	個体的所有・市民社会・プロレタリア独裁	現代の理論 150号	1976年7月
対談	先進国革命をどう捉えるか	世界政経(世界政治経済研究所) 5巻 8号	1976年8月
討論	考えよう、新しい変革への道	あすど(全電通労働学校団結の家) 8号	1976年9月
対談	現代社会主義再考	思想の科学(思想の科学研究会) 79号	1977年8月
対談	〈新風土論〉日本の共同体	経済セミナー 272, 273号	1977年9, 10月
対談	現代社会主義と『市民社会と社会主義』	季刊現代の理論 165号	1977年12月

- |       |                                       |   |                                  |
|-------|---------------------------------------|---|----------------------------------|
| 討論    | 欧米経済社会考<br>—わが生活体験から—                 | 世 界 389号                                | 1978年 4 月                        |
| 対談    | マルクス研究と現代                             | 経 済 評 論 27巻11号                          | 1978年11月                         |
| 討論    | シンポジウム：新しい所有構造<br>の模索                 | 創 造 の 世 界 (小学館)<br>28号                  | 1978年11月                         |
| 討論    | 特別シンポジウム：憂うべき日<br>本社会の右旋回             | 季刊現代経済(日本経済新聞<br>社) 34号                 | 1979年 4 月                        |
| 報告    | 個体的所有と自主管理社会主義                        | 社会主義と労働運動(社会主<br>義理論政策センター) 3巻6<br>号    | 1979年 6 月                        |
| 報告    | 復権されるべき社会主義の内実                        | 社会主義と労働運動 4巻7<br>号                      | 1980年 7 月                        |
| 対談    | 社会主義の再定義                              | 日本読書新聞 2066号                            | 1980年 7 月21日                     |
| 報告    | 〈生産 production〉について                   | 『くもの〉からの発言…作る』<br>平凡社カルチャー-today ⑤      | 1980年 9 月                        |
| 討論    | 廃棄の時代から計画の時代へ                         | 同 上                                     | 1980年 9 月                        |
| 対談    | 曲がり角の日本と社会科学                          | エコノミスト 59巻1号                            | 1981年 1 月 6 日                    |
| 討論    | 平田清明氏に聞く<br>—新しい経済学の立場から—             | 思想の科学 128号                              | 1981年 2 月                        |
| 講演記録  | 経済学と社会認識<br>—『資本論』の現代的意義—             | 滋賀大陵水新聞(滋賀大学陵<br>水新聞会) 128号             | 1981年 5 月 6 日                    |
| 討論    | 曲がり角にきた日本をどう捉え<br>るか                  | 社会主義と労働運動 5巻6<br>号                      | 1981年 6 月                        |
| 講演記録  | 現代における市民社会・国<br>家・共同体—転換期の思想<br>を求めて— | 自 治 と 社 会 (自治社会研究<br>会) 4号              | 1981年 6 月                        |
| 対談    | 保守と革新のはざまで                            | エコノミスト 59巻26号                           | 1981年 7 月 5 日                    |
| 討論    | 現代における選択肢：世界の動<br>きと日本の現状             | 社 会 運 動 (社会運動研究<br>センター) 25号            | 1982年 4 月15日                     |
| 対談    | 宗教と経済                                 | 中 外 日 報 (中外日報社)<br>22904, 22905, 22908号 | 1982年 6 月14日<br>6 月16日<br>6 月23日 |
| 対談    | 続・宗教と経済                               | 中 外 日 報 22936, 22938号                   | 1982年 8 月25日<br>30日              |
| 討論    | マルクスは何を提起したのか                         | 別冊 経済セミナー 『マルク<br>ス死後100年』              | 1983年 2 月                        |
| 講演記録  | 現代の危機と自主管理—マ<br>ルクスからの出発              | 社会主義と労働運動 7巻11<br>号                     | 1983年11月                         |
| 討論    | 時代の潮流をみつめる                            | エコノミスト 62巻1号                            | 1984年 1 月17日                     |
| 報告と討論 | ヨーロッパで考えた日本                           | 現代の理論 223号                              | 1986年 3 月                        |

## 紀行文

にんげん紀行	パリに桜の咲く頃	中外日報	23214号	1984年5月25日
にんげん紀行	ヴェルサイユの雨 —煙雨の王宮にアントワネットを偲ぶ	中外日報	23225号	1984年6月20日
にんげん紀行	夏の歓びの日々—フラン スの象徴ノルマンジー(上)(下)	中外日報	23257, 23258号	1984年9月 3, 5日
にんげん紀行	夏の歓びの日々—第二部 ブルゴーニュの旅(上)(下)	中外日報	23269, 23271号	1984年10月 1, 5日
にんげん紀行	冬休みのパリ(上) (下)	中外日報	23319, 23220号	1985年2月 1, 4日
にんげん紀行	早春の南フランス(上) (下)	中外日報	23346, 23348号	1985年4月 5, 10日
にんげん紀行	ベネルクスの夏(上) (下)	中外日報	23398, 23399号	1985年8月 7, 9日
にんげん紀行	遙かなるピレネーで思 う(上)(下)	中外日報	23426, 23432号	1985年10月16日 11月1日
にんげん紀行	中国の旅	中外日報	23457号	1986年1月1日
にんげん紀行	中欧の旅	中外日報	23466号	1986年2月3日
にんげん紀行	イギリスの旅 —資本主義母国の惨状	中外日報	23477号	1986年3月3日

〔本目録は、辞典項目やガイドランス等の小文を除いて平田教授の学術的著作活動を記録したものである。自由なエッセイ等も含めた悉皆的な目録としては、ゼミ生の手になる『平田清明著作＝目録と解題』が、1983年3月に作成されている。〕

(作成者 八木紀一郎)